

2020年度出雲崎町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、中央部に二級河川島崎川が南北に流れ、樹枝状に伸びる支流に沿って帯状の耕地が点在している。町の総面積の7割を山林が占める中山間地域のため、1圃場当たりの面積平均は4.15aと小さく、圃場の大規模化が進んでおらず、農地の2割が不作付地となっている状況である中で、稲作が主体の農業構造となっている。町内全域で慣行栽培に比べ化学合成農薬・肥料を5割減らした特別栽培米の栽培を実施し、環境に配慮した農業を全面的に推進している。また、土づくりの推進や確立された栽培方法の普及による高品質化とともに、徹底的なトレーサビリティに取り組んでいる。

販売農家は第2種兼業農家が多く、担い手の高齢化及び後継者不足が深刻となっている。また、農業機械を個人で所有している比率が高く、コスト面で大きな負担となっていることが課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた「売れる米づくり」に向け、栽培基準に沿った高品質米の安定生産を引き続き推進するとともに、全品種において肥料及び農薬を統一し、特別栽培米の表示・販売ができる体制を作る。

また、共同乾燥調製施設(RC)を有効活用することで、乾燥調製作業の精度の向上と穀粒選別機や色彩選別機による整粒歩合の確保を図り、実需からの要望である品質の平準化と合わせて、出荷時期、包装容器の多様化(フレコン)に対応していく。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

需要に応じた米生産を推進し、生産者の手取りを確保するため、主食用米に替わる重要な作物として位置づけ、水田活用の取り組みとして複数年契約を進めながら生産の拡大を図る。

イ 米粉用米

需要に応じた米生産を推進し、生産者の手取りを確保するため、主食用米に替わる重要な作物として位置づけ、水田活用の取り組みとして複数年契約を進めながら生産の拡大を図る。

また、酒造好適米の需要減少に対応するため、米粉用米への転換を図る。

ウ 新市場開拓用米

需要に応じた米生産を推進し、生産者の手取りを確保するため、主食用米に替わる重要な作物として位置づけ、水田活用の取り組みとして多収品種の導入を進めながら生産の拡大を図る。

エ WCS用稲

需要に応じた米生産を推進し、生産者の手取りを確保するため、主食用米に替わる重要な作物として位置づけ、水田活用の取り組みとして生産の拡大を図る。

オ 加工用米

需要に応じた米生産を推進し、生産者の手取りを確保するため、主食用米に替わる重要な作物として位置づけ、低コスト化を目指した加工用米の生産を実施するとともに、多収品種の導入を進めながら生産の拡大を図り実需者への販売強化を図る。

カ 備蓄米

需要に応じた米生産を推進し、生産者の手取りを確保するため、主食用米に替わる重要な作物として位置づけ、買い入れ数量に応じた作付けを推進する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

ア 大豆

実需が求める生産量の確保に向け、暗渠または明渠、中耕・培土により排水対策を実施し作付面積の維持・拡大を目指す。

イ 麦

実需が求める生産量の確保に向け、暗渠または明渠、中耕・培土により排水対策を実施し作付面積の維持・拡大を目指す。

ウ 飼料作物

地域の需要量に応じた生産量の確保に向けて作付推進を図る。

(4) そば、なたね

ア そば

作付面積は少ないものの、実需者との契約に基づき、作付生産に取り組む。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

ア 野菜

(ア) アスパラガス（地域振興作物）

アスパラガスを地域重点品目に定め、積極的な支援を行い、生産の拡大を図る。

(イ) かぼちゃ（地域振興作物）

かぼちゃを地域重点品目に定め、積極的な支援を行い、生産の拡大を図る。

(ウ) 梅（地域振興作物）

梅を地域重点品目に定め、積極的な支援を行い、生産の拡大を図る。

(エ) エゴマ（地域振興作物）

エゴマを地域重点品目に定め、積極的な支援を行い、生産の拡大を図る。

(オ) その他野菜・花き・果樹

地産地消運動の展開を目指し、農産物直売所を軸とした売上増加と、学校給食への供給量拡大を図るため、地域振興作物以外のその他野菜・花き・果樹について作物生産への指導・推進を行う。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	319.63	319.50	335.00
うち家庭用	316.63	316.50	330.00
うちコシヒカリ	180.00	180.00	200.00
うち業務用	3.00	3.00	5.00
飼料用米	3.76	3.30	3.30
米粉用米	0.00	0.50	15.50
新市場開拓用米	0.00	0.50	0.50
WCS用稲	0.00	0.50	0.50
加工用米	1.82	2.00	2.00
備蓄米	0.00	0.50	0.50
麦	1.17	1.40	1.40
大豆	1.00	1.40	1.40
飼料作物	0.39	1.50	1.50
そば	0.00	0.50	0.50
なたね	0.00	0.00	0.00
その他地域振興作物	5.02	6.23	6.23
野菜			
・エゴマ	1.17	1.60	1.60
・アスパラガス	0.40	0.11	0.11
・かぼちゃ	2.05	1.70	1.70
・梅	0.00	0.00	0.00
・その他野菜、山	1.37	2.00	2.00
菜等			
・その他果樹	0.03	0.02	0.02
・花き	0.00	0.80	0.80
・雑穀、その他作	0.00	0.00	0.00
物			
合計	332.79	337.83	368.33

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	飼料用米 米粉用米	複数年契約加算	飼料用米 複数年契約取組面積・数量	(2019年度) —	(2020年度) 3.30ha・17.0t
			作付面積・数量	3.76ha・19.4t	3.30ha・17.0t
			米粉用米 複数年契約取組面積・数量	(2019年度) 0.00ha・0.0t	(2020年度) 0.50ha・2.5t
			作付面積・数量	0.00ha・0.0t	0.50ha・2.5t
2	麦	品質向上支援	取組面積 2等級以上の比率	(2019年度) 1.17ha (2019年度) 100%	(2020年度) 1.40ha (2020年度) 100%
3	大豆	単収向上支援	取組面積 単収	(2019年度) 0.64ha (2019年度) 14kg/10a	(2020年度) 1.00ha (2020年度) 95kg/10a
4	そば	生産拡大支援	作付面積	(2019年度) 0.00ha	(2020年度) 0.10ha
5	地域振興作物 (アスパカス、かぼ ちや、梅)	生産拡大支援	作付面積	(2019年度) 2.45ha	(2020年度) 1.70ha
6	野菜・花き・果樹	生産拡大支援	作付面積	(2019年度) 1.40ha	(2020年度) 1.95ha
7	エゴマ	単収向上支援	作付面積 単収	(2019年度) 1.17ha (2019年度) 11kg/10a	(2020年度) 1.20ha (2020年度) 30kg/10a
8	新市場開拓用米	新市場開拓用米取 組拡大支援	取組面積	(2019年度) 0.00ha	(2020年度) 0.50ha
9	転換作物	転換作物拡大加算	拡大面積	(2019年度) 0.00ha	(2020年度) 15.0ha
10	高収益作物等 (エゴマ、加工用 米、新市場開拓米)	高収益作物等 拡大加算	拡大面積	(2019年度) 0.00ha	(2020年度) 1.00ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり